



**B O A R D O F S T U D I E S**  
NEW SOUTH WALES

**2010**

**HIGHER SCHOOL CERTIFICATE  
EXAMINATION**

# **Japanese Background Speakers** (Section I — Listening and Responding Part A and Part B)

## **Transcript**

### Familiarisation Text

FEMALE : 来年のワールドカップ、日本もオーストラリアも行けるといいですね。

MALE : そうですね。

FEMALE : そして決勝で日本とオーストラリアが対決するともっといいです。

MALE : その時にはぼくはオーストラリアが勝つといいと思います。

## Section I — Listening and Responding

### Part A

#### Question 1

男 : おーい、安田！ちょっと。

女 : 何よ、浅井。

男 : 昨日の奥田先生の英語のノート、貸せよ。

女 : なんで私が？あんたなんかに。

男 : そんなこと言うなよ。ちょっと、サボっちゃったから。。。奥田先生って、めっちゃこわいから。

女 : そんなの自分のせいでしょ。

男 : ひどいな。本当に風邪でダウンしてたんだぜ。熱も高くてウンウン言ってたんだから。

女 : ふうふうん。風邪ねえ。。。ウンウンしてたって？私なんかじゃなくて誰かほかの子に借りれば？3組のユキ、あんたの彼女なんでしょ？こないだ楽しそうに手をつないで歩いてたじゃない。見ちゃったよ。

男： そんなんじゃないよ！！ユキこのごろ元気ないんだ。家がもめてるみたいで。それにあいつが勝手に手を組んできただけじゃん。なんだよ、安田のけち！昔はよく助けてくれたのに。よく言うよ。そっちだって。。。

女： そんなの小学校の頃でしょ。浅井ってどんくさかったから。運動もダメだし、音痴だし、字書くの遅いし、おまけに字汚いし、宿題いつも忘れるし。。。

男： なんだよ、そこまで言わなくてもいいだろう。

女： まあいいか。じゃ、これ。ちゃんと返してよ！

男： おー。わかんないところあったら、メールしていい？

女： なによ、あのメール。全然勉強に関係ないじゃん。

男： いや、あん時ちゃんと話せなかったから。何かユキのこと誤解してるみたいだから。

女： 言い訳なんかしなくてもいいわよ。

男： そんなんじゃないけど。。。その～。。。こないだはサンキュ。あの。。。お礼っちゃんなんだけど。。。今度、映画行かない？

女： ん？浅井と？二人で？

男： そう、二人で。安田と一緒に映画もいいかなって。

女： そうねえ、考えてみる。メールするわ。

男： じゃ、いい返事くれよな。

## Section I — Listening and Responding

### Part B

司会者： 広島県福山市鞆<sup>とも</sup>の浦を埋め立てて橋を架ける計画をめぐり、先日広島地裁で「開発反対」の判決がでました。しかし現在でも、住民の間で開発賛成と反対に意見が分かれています。本日は開発反対派の平野さん、賛成派の坂本さんからの話を聞いていただきます。

では、最初に反対派の平野さんの話を聞いてください。

### Question 2, Text 1

平野： 広島地裁の景観利益を認めるという判決を歓迎します。地元住民の大多数が開発に賛成という「大多数」の根拠が不明確です。鞆の浦では港や町並みが一体となって生活が営まれています。それは歴史的、文化的、自然的価値に基づいています。景観は単なる観光資源ではなく、重要な生活環境の一部です。埋め立て、架橋が実現すれば、海から受けていた潮風は排ガスの風に、浜に打ち寄せる波の音は車の騒音へと変わり、静かで安全な生活は一変してしまいます。埋め立てが始まればすぐに鞆の浦と周辺の景観が壊され、しかもいったん壊された景色をもとに戻すのは不可能です。大人はかつて美しい海で泳いだり、街角で遊んだりした楽しい思い出を子供たちに残す義務があると思います。日本は伝統的に「もったいない」という精神で古いものを大切にしてきました。判決はこうした日本人の古き良き心をもう一度見つめ直すきっかけになると思います。

司会者： では、ここで少し休憩をしたいと思います。

司会者： 次は賛成派の坂本さんをお願いします。

## Section I — Listening and Responding

### Part B

#### Question 2, Text 2

坂本： 広島地裁の判決は誠に残念です。埋め立て、架橋計画は住民に利益をもたらします。人口が半世紀で以前の3分の1の五千人弱に落ち込み、空き家の増加で歴史的な町並みが失われ産業も衰退しつつあります。だからこの計画が立てられたのです。この開発によって漁業などの産業復興につながり、人口の定着を図ることができます。環境保護のために住民の生活を犠牲にするべきではないと思います。満点ではないかも知れないが、この計画は多くの住民が賛成しており、民主主義にのっとり、市議会の議決を得ています。幅の広い道路が整備されれば半島を一回りすることができます。名所のある沼隈と鞆の間で、観光や産業分野の連携が生まれ、半島振興に役立ちます。子孫が町に定着して伝統文化を継承していくためには、生活環境整備が必要です。住民のその切実な思いがこの判決には反映されていません。人が住んでこそ町。住民の生活が切り捨てられてもいいのでしょうか。人の住める町にしなければ鞆の歴史や文化は守れないと思います。

司会者： 平野さん、坂本さん、本日は貴重な意見ありがとうございました。来週、若い人たちを交えて集会があります。そこで、あなたの意見を発表してください。